



宮前区民のくらしを 豊かにするための アンケート

〈 結果概要 〉

も く じ

1. 調査概要	2
2. 調査結果	3
3. 総 括	13
4. 参考資料	14

1. 調査概要

平成28年7月1日、聖マリアンナ医科大学・田園調布学園大学・宮前区の3者は、医療と福祉が連携したまちづくりを目指して協定を締結しました。この協定に基づく取り組みとして、宮前区における全世代を通じた安心・安全な生活の実現のための地域包括ケアシステムの推進に向けて、宮前区民を対象とした意識調査を実施しました。今後、その結果を区民の皆様と共有し、ともに住みやすいまちづくりを目指します。

(1) 調査区域：神奈川県川崎市宮前区

(2) 調査対象：宮前区に住む30歳以上の男女1,000名を無作為に抽出

(3) 調査期間：平成29年9月1日～9月20日

(4) 調査方法：自記式質問用紙による郵送調査

(5) 調査内容：

I. 基礎調査：性別、年齢、居住（形態・年数・町域）、職業、家族構成

II. 地域の医療について：現在の居住地域の医療施設の充足・満足度、かかりつけ医療機関の有無、休日・夜間の医療体制の充足度、充実してもらいたい医療機能、在宅療養に対する意識について

III. 災害時における行動や医療について：災害への備えに対する意識、災害時の助け合いに対する意識、災害時の医療に対する意識、災害時に医療機関に求めるサービス、災害時のお薬管理について

IV. 日常生活について：近所の方とのつきあいに対する意識、地域活動への参加の意識、近所の方との助け合いに対する意識、見守り支援活動に対する意識、リタイア後の就労に対する意識、日常生活における地域環境について、地域包括ケアシステムの理解度

2. 調査結果

I. 基礎調査結果

回答者は、男性205人(49.3%)、女性211人(50.7%)であった。年齢は30-49歳158人(38.0%)、50-64歳111人(27.7%)、65歳以上147人(35.3%)であった。居住年数は20年以上が154人(37.1%)で最も多く、持ち家(一戸建て・マンション)は305人(73.5%)であった。同居している家族は、配偶者が316人(76.0%)、子どもが236人(56.7%)が多かった。地域分類は、川崎市宮前区の地域包括支援センターの担当地域に基づいて分類した(図1)。

II. 地域の医療について

1) 地域の医療施設の数について

病院の数は「多い、特に不便を感じていない」が55.3%、「少ない」が32.3%、診療所の数は「多い、または特に不便を感じていない」が76.8%、「少ない」が16.9%であった(図2)。病院の数に比べ、診療所の数は「多い、特に不便を感じていない」と感じている人が多かった。しかし、地域別の診療所の数については、水沢・潮見台・菅生ケ丘・菅生・初山地区では「少ない」と感じている人が他の地域に比べて多かった(図3)。地域別の診療所の数を調べたところ、地域によってばらつきがみられた。

図1 地域別 回答者数

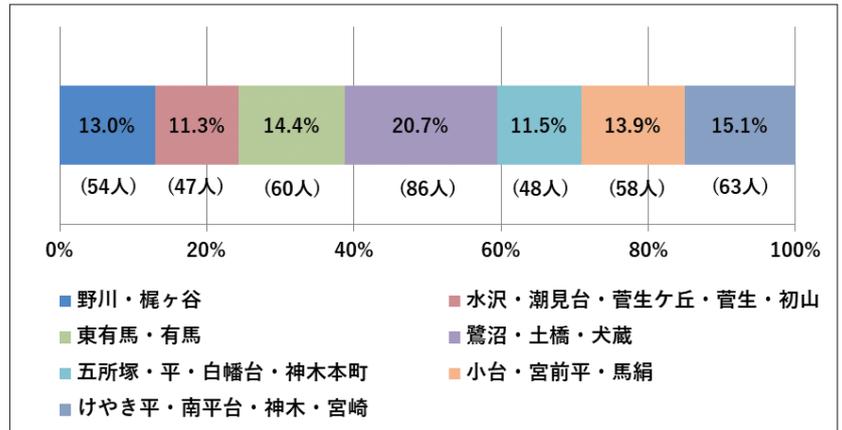


図2 医療施設の数についてどのように感じていますか

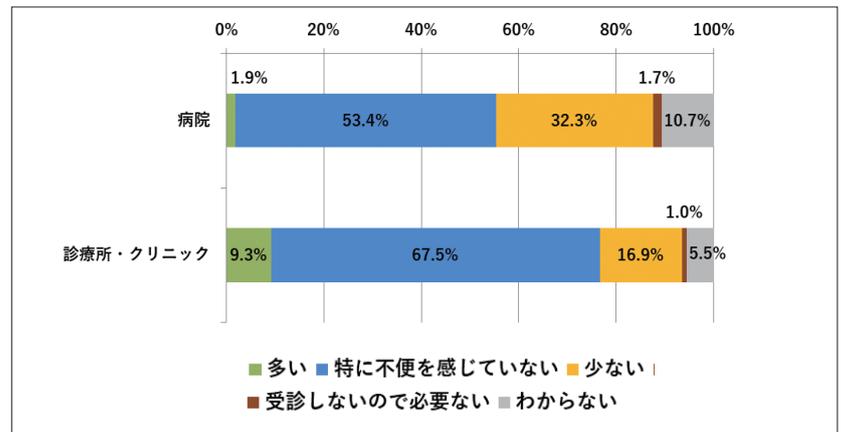
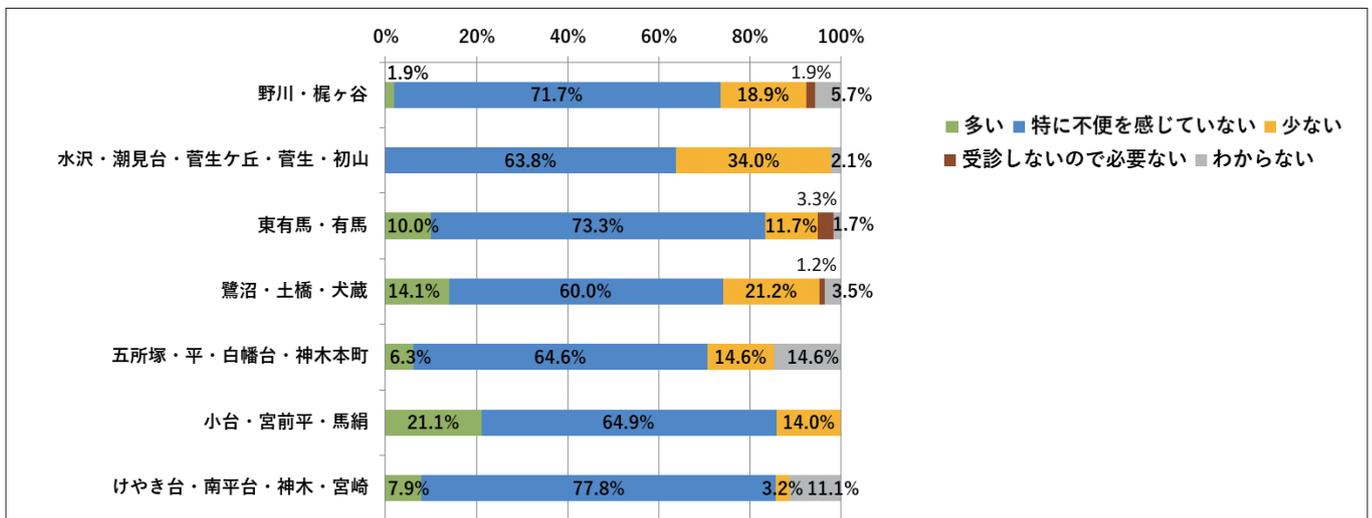


図3 診療所の数についてどのように感じていますか (地域別)



2) 休日・夜間診療について

休日・夜間診療に対応している医療施設数については、42.0%が「少ない」と感じていた。特に、子どもと同居している人や女性、30-39歳で「少ない」と感じている人が多かった。

一方で、休日・夜間診療に対応している医療施設や問い合わせ先を「両方知っている」と回答した人は29.5%、「両方知らない・わからない」と回答した人は32.1%であった(図4)。また、子どもと同居している人で「両方知っている・どちらかは知っている」と回答した人は76.5%、子どもと同居していない人は54.9%であった。

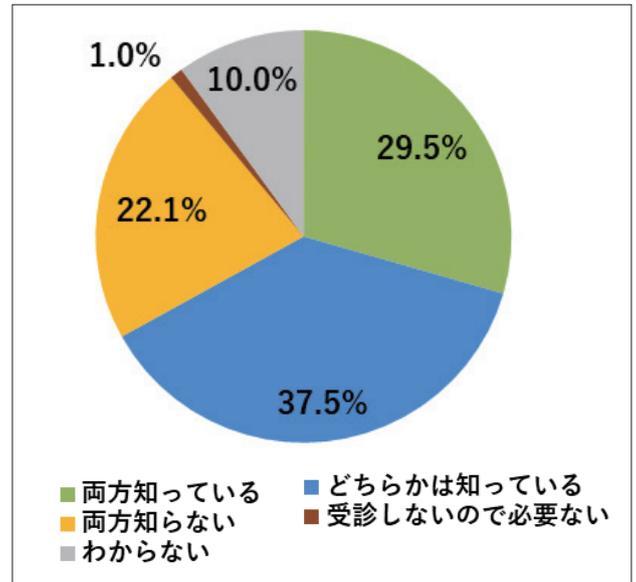
休日・夜間に医療機関を探るとき

○川崎市救急医療情報センター

24時間365日対応。これから受診できる医療機関（歯科を除く）の案内が受けられます。

電話 044-739-1919（オペレーター対応）
044-739-3399（音声ガイダンス）

図4 休日・夜間診療に対応している医療施設や問い合わせ先を知っていますか



3) 今後、より充実して欲しい医療機能について

居住地域の医療体制でより充実して欲しい医療機能の上位5つは、「救急医療(夜間・休日の医療)」(57.9%)、「在宅医療」(23.0%)、「小児医療」(14.6%)、「がん医療」(14.1%)、「脳疾患医療」(13.2%)であった。

「在宅医療」については50-64歳、65歳以上の人、「脳疾患医療」については50-64歳の人が充実を望んでいる人が多かった。

「小児医療」は、他の年代に比べ30-49歳、子どもと同居している人で望んでいる人が多かった。また、鷺沼・土橋・犬蔵地区は、他の地域に比べ「小児医療」の充実を望んでいる人が多かった。鷺沼・土橋・犬蔵地区の小児科を標榜している診療所・クリニックの数を調べたところ、鷺沼と犬蔵では小児科を標榜している診療所の数は0件であった。

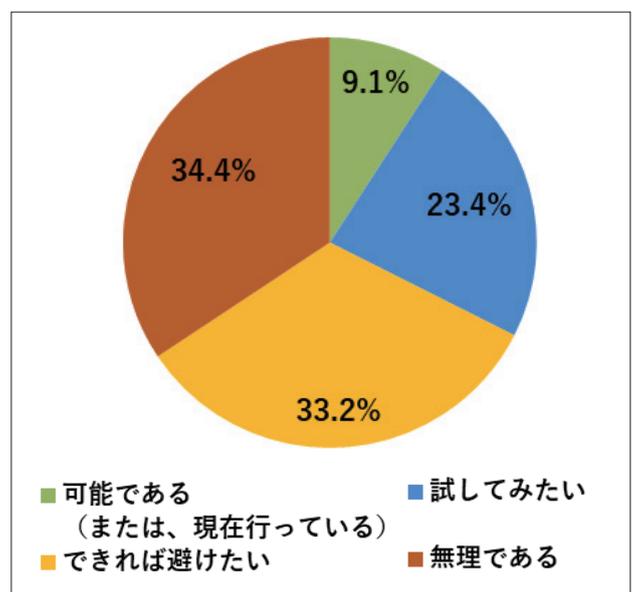
4) 在宅療養について

自分や家族が病気やケガ、障害により、長期の医療や介護が必要になった場合、病院には入院せずに在宅で療養することは可能かについて、「可能である、または試してみたい」は32.5%、「できれば避けたい、無理である」は67.6%であった(図5)。

また、在宅での療養を「できれば避けたい、無理である」と回答した理由で最も多かったのは、「家で世話をする人が確保できない」(75.2%)、次に「病状が急に変わったときの対応が不安」(47.8%)、「療養できる住環境が整っていない」(46.4%)、「経済的事情や費用が心配」(32.4%)であった。

自分や家族が長期療養しなければならない場合、誰にどれくらい頼りたいかについて、医療機関や医療専門職(医師、看護師、保健師)、介護サービス業者、市役所・区役所に対

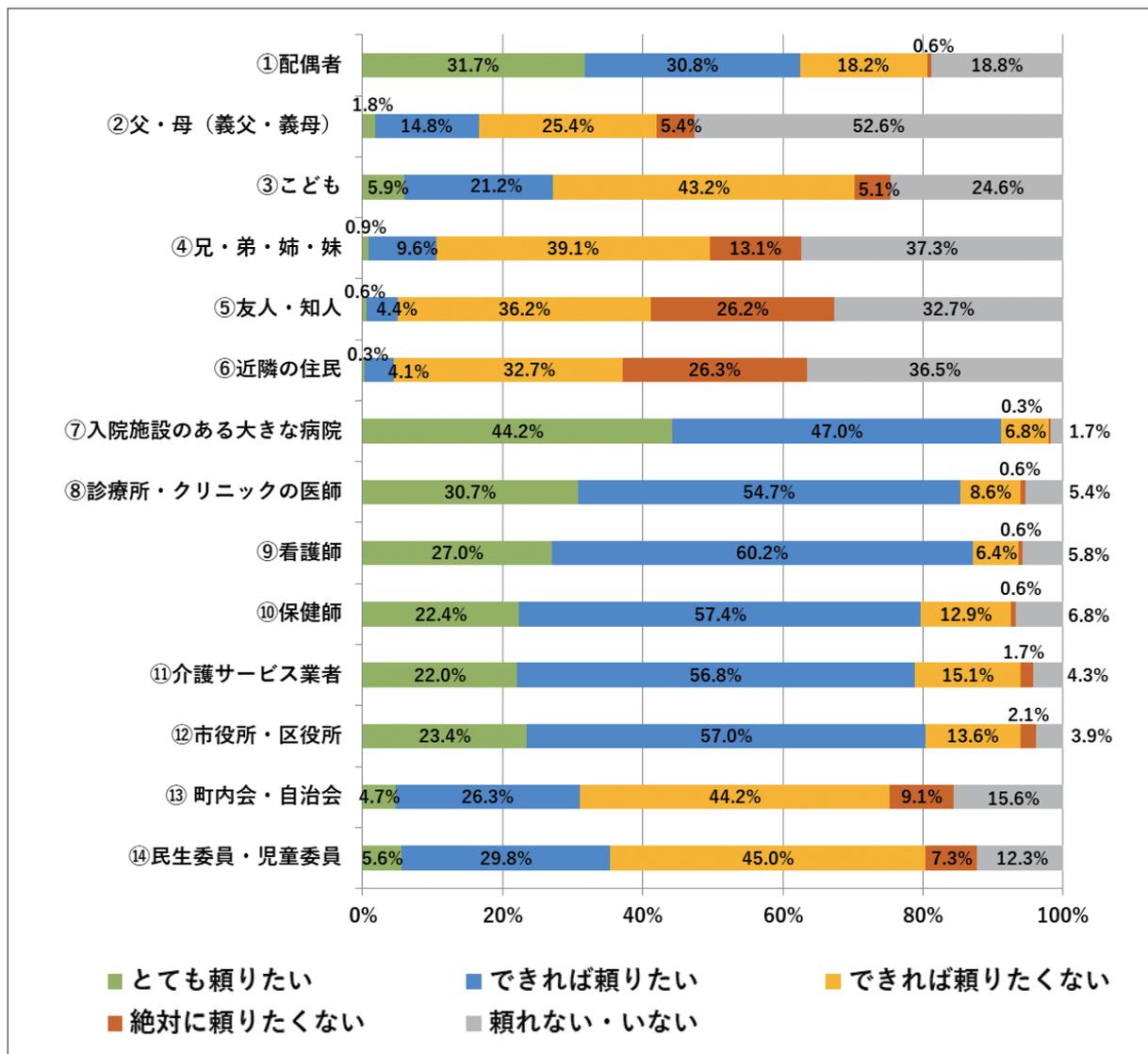
図5 入院せず在宅で療養することは可能ですか



しては約80%以上の方が「とても頼りたい、できれば頼りたい」と回答している一方で、父母(義父母)、兄弟姉妹、友人・知人、近隣住民に対しては約80%以上の方が「できれば頼りたくない、絶対に頼りたくない、頼れない・いない」と回答していた(図6)。性別では、男性は女性に比べて兄弟姉妹や近隣の住民に対して「絶対に頼りたくない」と考えている人が多かった。年代別では、医療専門職(医師、看護師、保健師)や介護サービス業者に対して、30-49歳は「とても頼りたい」と思っている人が他の年代に比べ多く、65歳以上では「頼れない」と思っている人が他の年代に比べ多かった。

また、公的制度を利用して、介護サービスをどれくらい利用してみたいかについては、居宅療養管理指導、訪問看護、訪問リハビリについては約85%以上の方が「とても利用したい、できれば利用したい」と回答し、訪問介護、訪問入浴介護、通所サービス、短期入所サービスについては約70%以上の方が「とても利用したい、できれば利用したい」と回答していた。性別では、すべてのサービスに対して、女性は「とても利用したい」と思っている人が多かった。年代別では、64歳以下の人は居宅療養管理指導、訪問看護、訪問リハビリ、通所サービスを「とても利用したい」と思っている人が多く、65歳以上では「できれば利用したくない」「どちらともいえない」と思っている人が多かった。

図6 在宅で長期療養をしなければならない場合、誰にどれくらい頼りたいですか



Ⅲ. 災害時における行動や医療について

1) 災害時の備えについて

地震や洪水、土砂崩れなどの自然災害に対する備えをしている人は約50%程度いるのに対し、その他の災害や危機に対してはほとんど備えをしていなかった(図7)。一方で、65歳以上の人は感染症など健康に関する危機の発生に備えをしている人が他の年代と比べ多かった。

地域の防災訓練への参加については、75.4%が「積極的に参加したい、できれば参加したい」と回答していた。特に、65歳以上では他の年代と比べ「積極的に参加したい」と回答した人が多かった(図8)。

図7 災害や危機に対してどの程度備えていますか

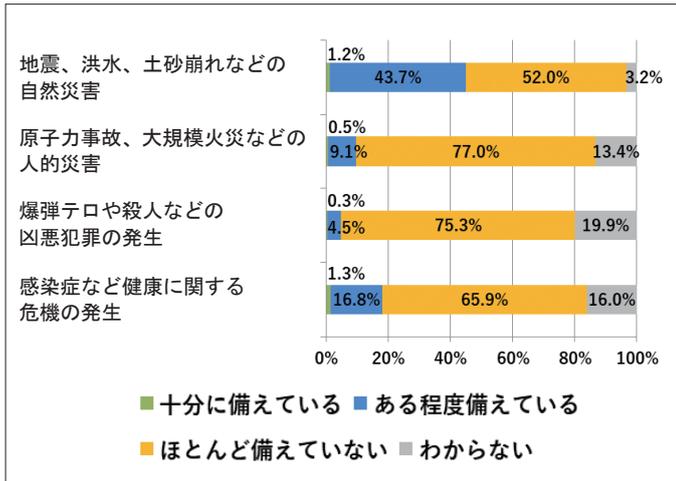
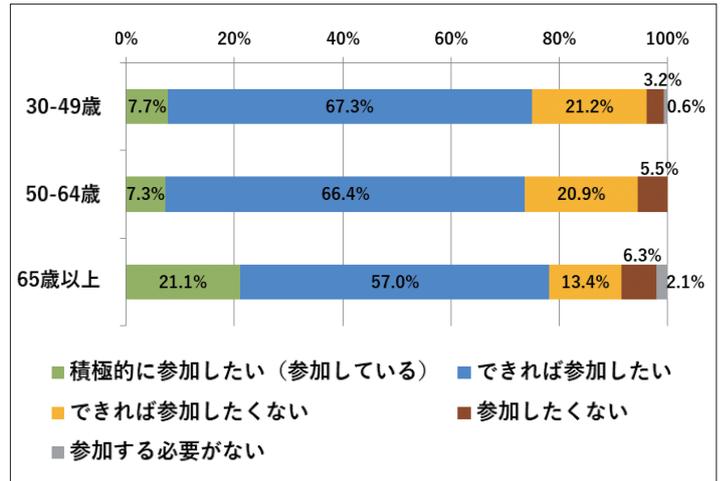


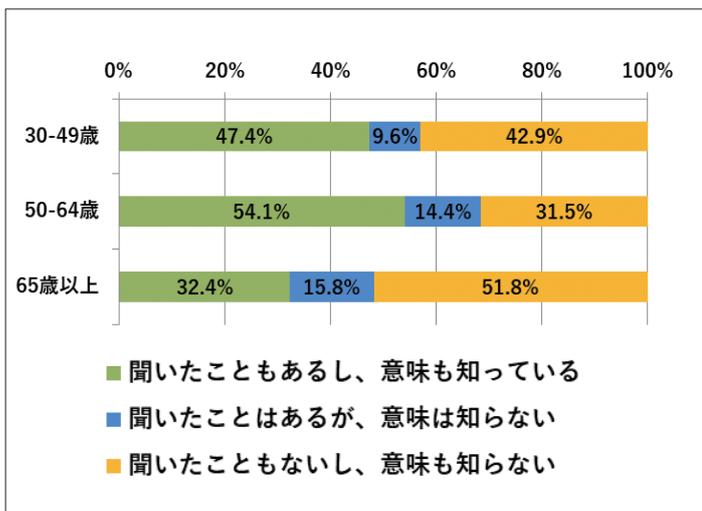
図8 地域の防災訓練に参加したいですか (年代別)



2) トリアージについて

トリアージという言葉を知ったこともあるし、意味も知っている人は44.1%、聞いたこともないし、意味も知らない人は43.1%であった。年代別にみると65歳以上では「聞いたこともないし、意味も知らない」と回答している人が他の年代と比べ多かった(図9)。

図9 トリアージという言葉を知ったことがありますか また、意味を知っていますか (年代別)



「トリアージ」とは

トリアージとは、災害時等において、傷病者の緊急度に応じて治療や搬送の優先順位を決めることを言います。

多数の傷病者に対して適切な処置・搬送を行うことを目的として実施され、傷病者は、緊急度に応じて次の4段階に分類されます。分類の際には、傷病者の識別のためにトリアージ・タグ(写真)等が使用されます。



- I (赤) …重症 / II (黄) …中等症
- III (緑) …軽傷 / O (黒) …死亡等

3) 災害時の医療について

命には危険がなく(極めて軽傷)、自分で動ける程度の病気やけがをした場合について、「市販薬を使い自分で手当とする」が41.8%と最も多かった(図10)。また、自然災害時(地震)で1週間が経過し、救出救助活動が徐々に収束し、医療の提供機能も徐々に回復してきた状況で、医療機関に強く望むもので最も多かったのは、「子どもを優先して診てほしい」であり、全世代が共通して望んでいた。次に「一般外来を早く再開して欲しい」、「医療機関の情報(開院状況等)を知らせてほしい」であった(図11)。

図10 自分で動ける程度の病気やけがをした場合、どうしますか

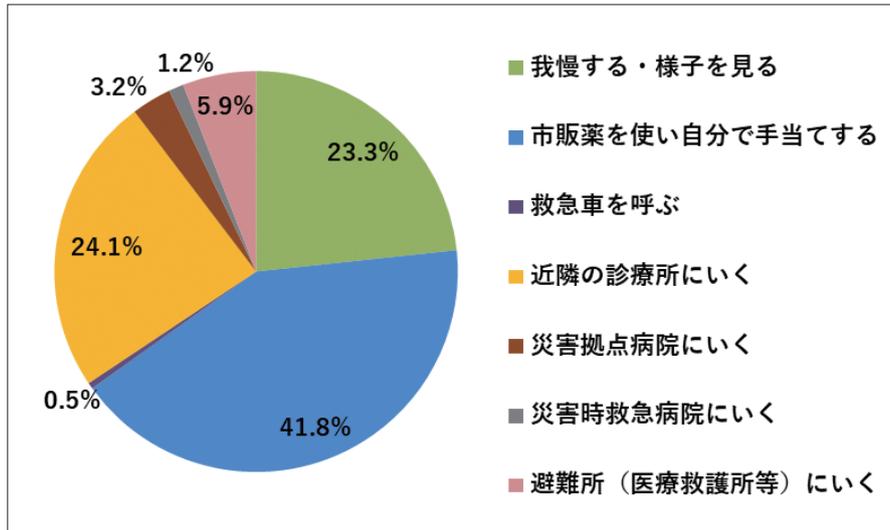
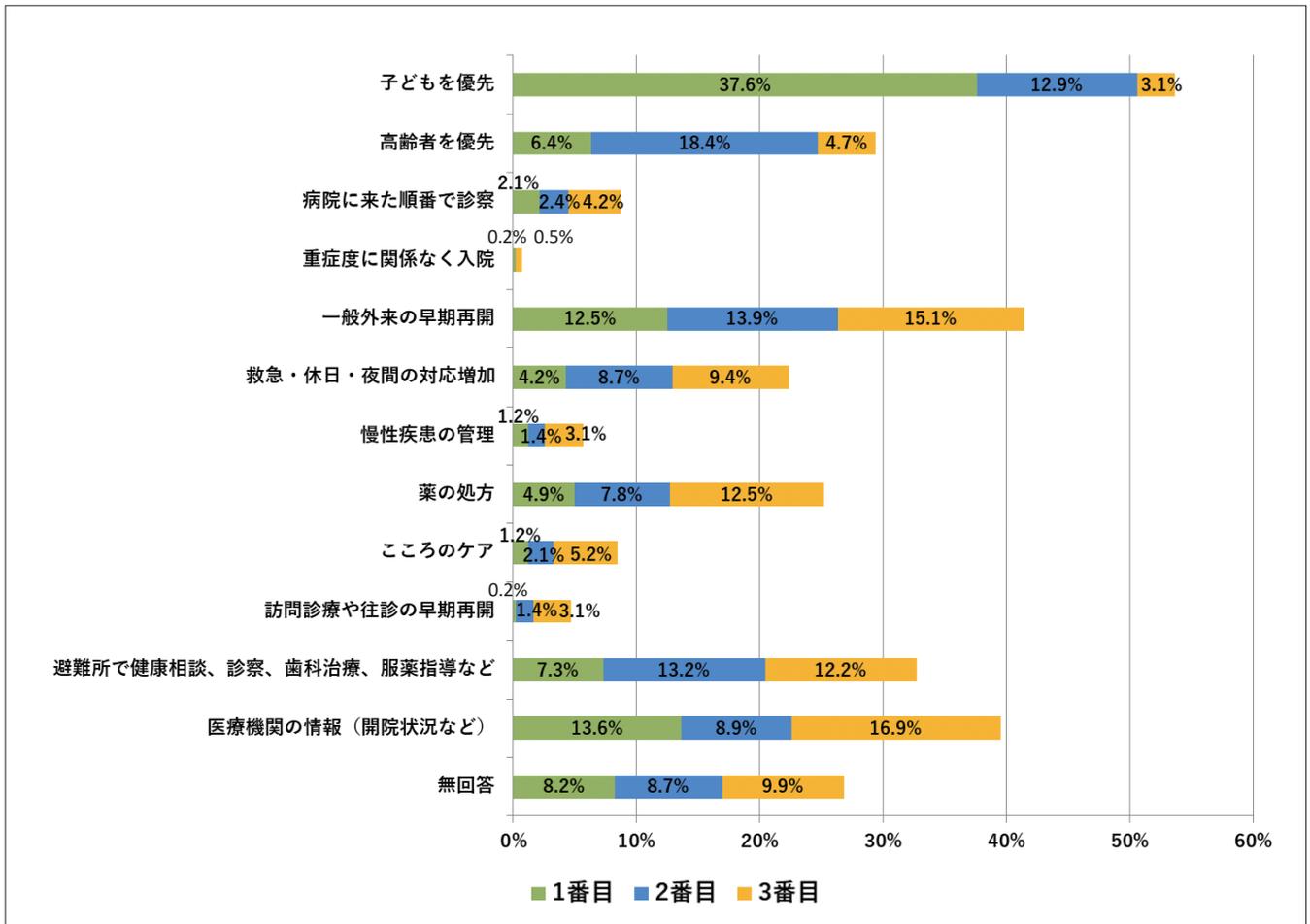


図11 自然災害時(地震)で1週間が経過し、救出救助活動徐々に収束し、医療の提供機能も徐々に回復してきた状況で、医療機関に強く望むもの

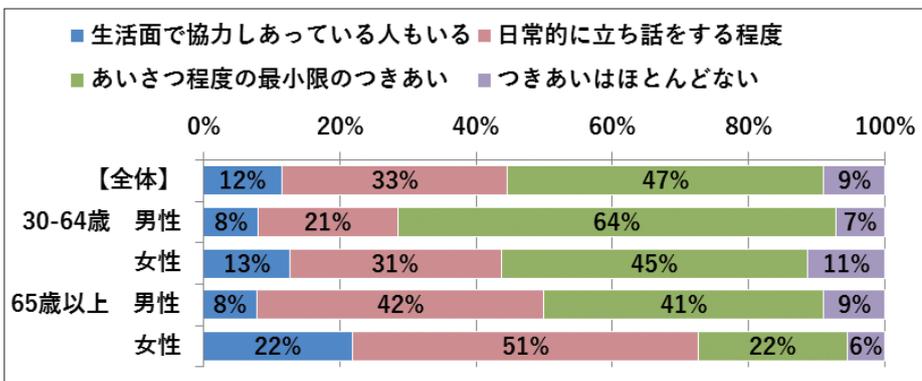


IV. 日常生活について

1) 近所の方とのつきあいについて

全体では「あいさつ程度の最小限のつきあい」が最も多く、次が「日常的に立ち話をする程度」であった。年齢層による比較では、30-64歳では「あいさつ程度」の割合が高く、65歳以上では「日常的に立ち話をする程度」の割合が高い。性別では女性のほうがつきあいの程度が高い傾向にある（図12）。

図12 近所の方とのつきあいについて



居住年数による比較では、居住年数が長くなるほど、つきあいの程度が高くなる。
住居形態による比較では、「持ち家（一戸建て）」の方はつきあいの程度が高く、「借家（マンション・アパート等）」の方は低くなる傾向にある。

2) 地域活動について

年齢層別の比較(図13)では、30-64歳で何らかの地域活動に参加している方は約半数であった。65-74歳では参加率がやや高くなるが、75歳以上では約半数に下がる。

各種地域活動の参加状況(図14)については、「町内会・自治会やマンション管理組合の活動」、「地域内の祭りや行事」の参加率が高い。年齢層による比較では、「町内会・自治会やマンション管理組合の活動」、「サークルやクラブの活動(スポーツ系、文化・学習系)」、個人・団体の「ボランティア活動」について65歳以上の割合が高い。

図13 地域活動の参加状況（年齢層別）

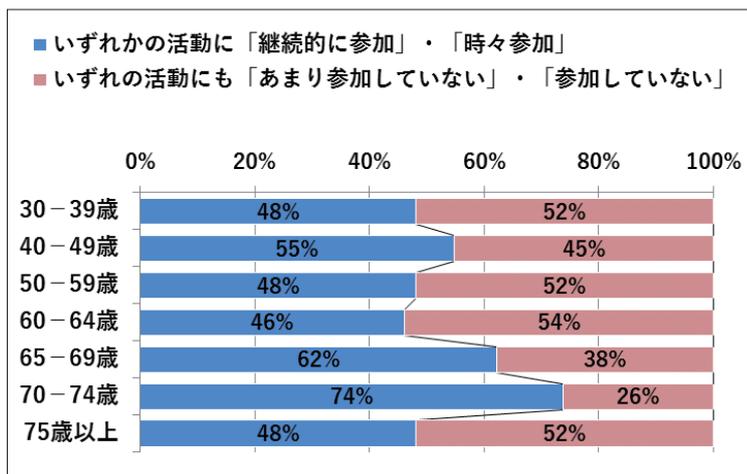
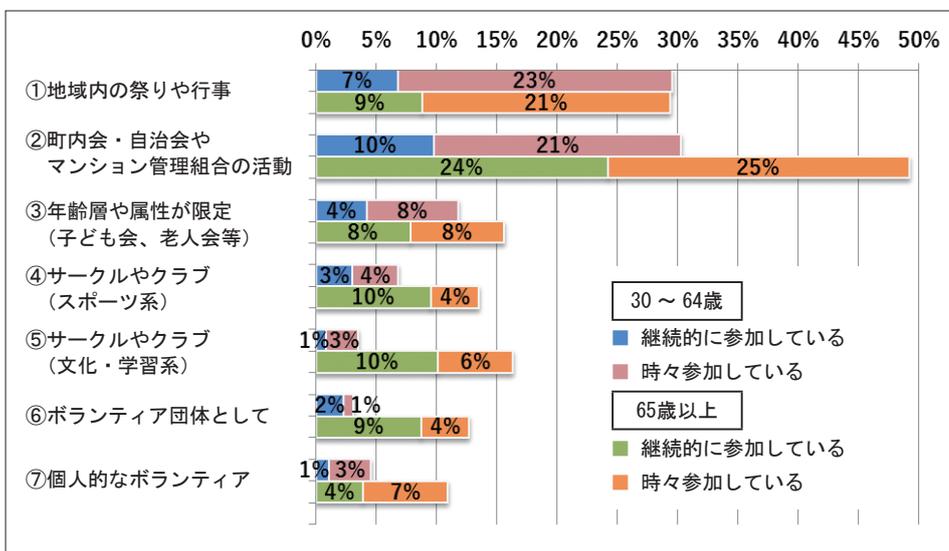


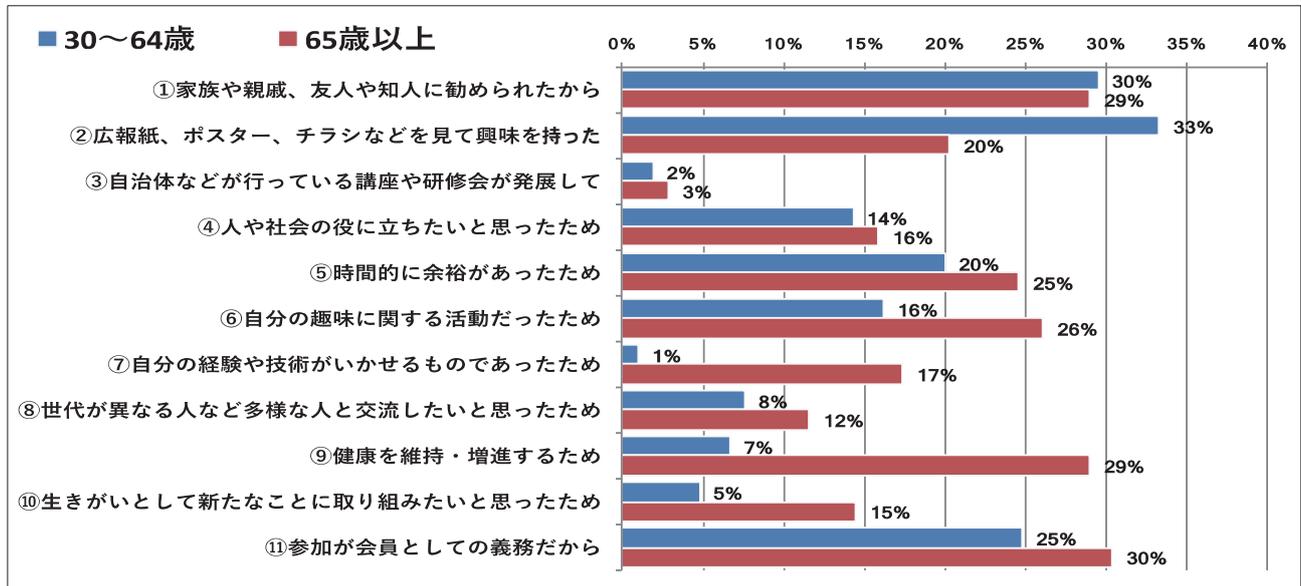
図14 各種地域活動の参加状況（年齢層別）



子育て中の方は、①・②・③の参加率が高いこともわかった。
（「継続的」・「時々」の合計：①48%、②41%、③21%
一方で、子育てしていない方は、それぞれ①21%、②35%、③10%）

地域活動に参加している理由やきっかけについて、全体では「家族や親戚、友人や知人に勧められたから」(27%)と「広報紙、ポスター、チラシ、回覧板などを見て興味を持ったから」(27%)が最も多かった。地域活動の課題や参加しない・しづらい理由については、「時間的に余裕がない」(40%)、「参加するきっかけが得にくい」(35%)、「身近に参加したいと思う活動や団体がない」(26%)の順に多かった。年齢層による比較の結果は(図15・16)の通りである。

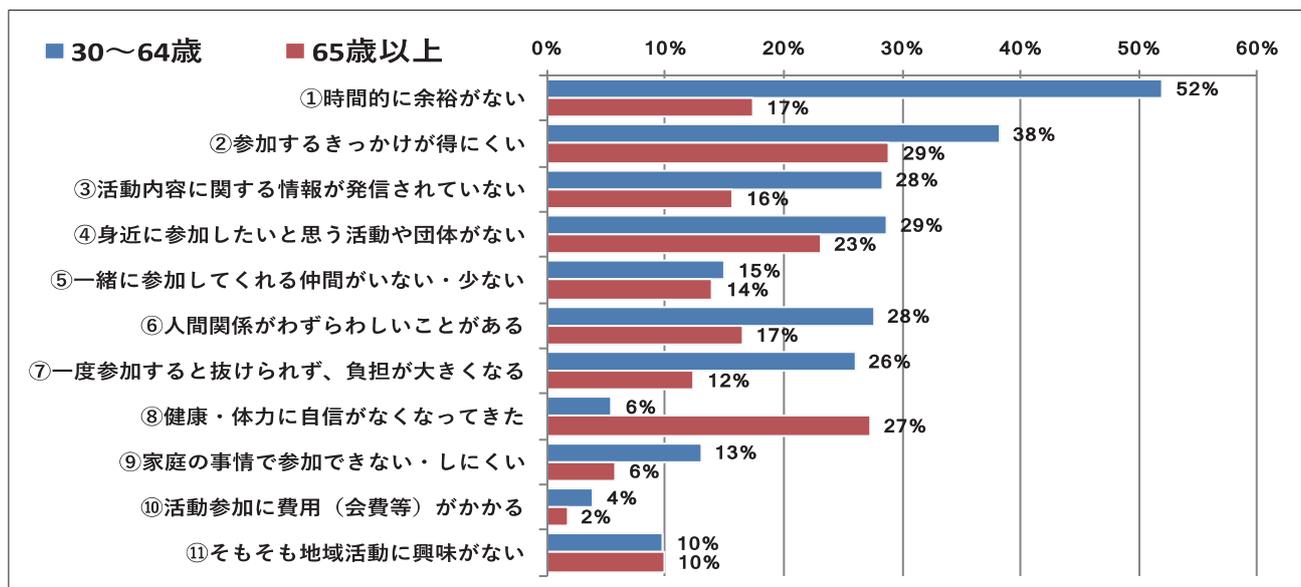
図15 地域活動に参加している理由やきっかけ(年齢層別)



年齢層によって特徴的な差が見られたのは以下2か所。

- ・ 30～64歳 ②「広報紙、ポスター、チラシ、回覧板などを見て」が多い
- ・ 65歳以上 ⑦「自分の経験や技術がいかせる」、⑨「健康を維持・増進するため」、⑩「生きがいとして」が多い。

図16 地域活動の課題や参加しない・しづらい理由(年齢層別)



年齢層によって特徴的な差が見られたのは以下2か所。

- ・ 30～64歳 ①「時間的に余裕がない」、③「活動内容に関する情報が発信されていない」、⑥「人間関係がわずらわしいことがある」、⑦「一度参加すると抜けられず、負担が大きくなる」が多い
- ・ 65歳以上 ⑧「健康・体力に自信がなくなってきた」が多い

3) 日常生活のお手伝いについて

近所の方へのお手伝いについての活動状況や思いは、全体で「現在お手伝いや活動をしている」・「機会があれば今後行ってもよい」と回答したもので多かったのは、⑩声かけや安否確認・見守り(60%)、⑤ゴミ出しや電球の取り換えなど些細なこと(51%)、①買い物の手伝い(50%)であった(図17)。また、性別による比較は、(図18)の通りである。

図17 近所の方へのお手伝いについての活動状況や思い(全体)

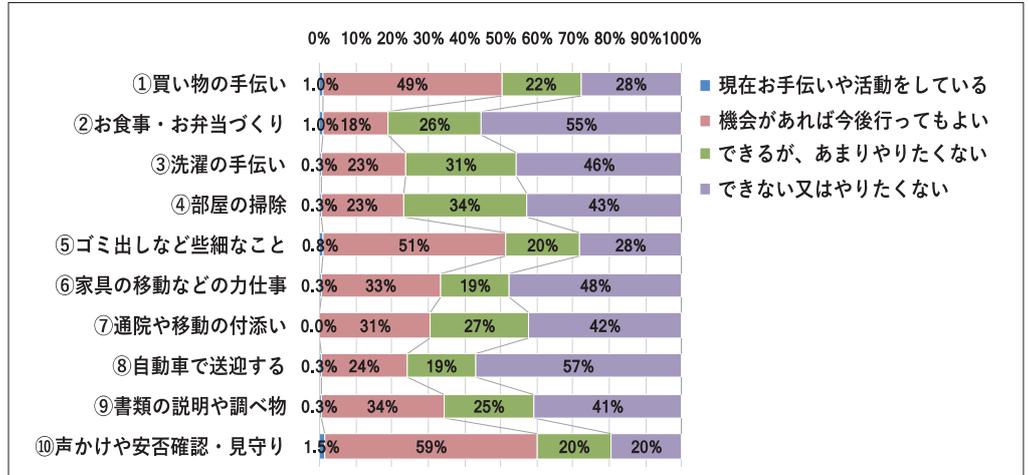
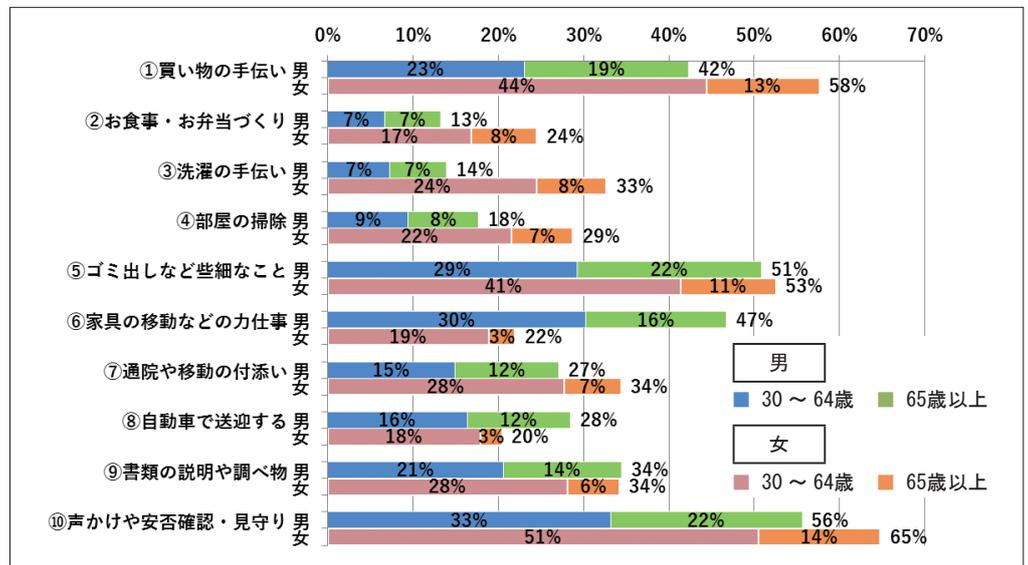


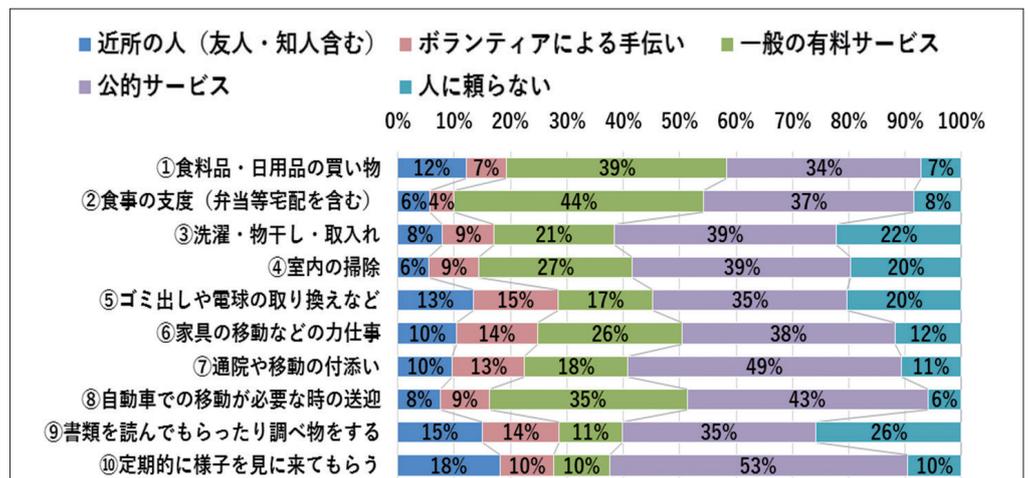
図18 近所の方へのお手伝いについての活動状況や思い(性別)

※「現在お手伝いや活動をしている」と「機会があれば今後行ってもよい」の合計



自分が日常生活に不具合が出てきたときに助けてもらいたい相手については、全体的に「公的サービス」に頼る割合が高く、また、買い物、食事の支度、自動車での送迎は「一般の有料サービス」の割合も高い。「近所の人」や「ボランティア」に頼る割合は低い。この傾向は、年齢層、地域、居住年数、つきあいの程度、地域活動の参加状況によって比較しても特徴的な差がなかった(図19)。

図19 自分が日常生活に不具合が出てきたときに助けてもらいたい相手



4) 近隣での見守り支援活動について

見守り支援活動のイメージは、「日常的に近隣の住民がみんなで互いに支え合う」が最も多かった。組織や体制としては、「持ち家(一戸建て)」では「隣り合う5～10軒程度」が、「持ち家(マンション・団地)」では「町内会・自治会やマンション管理組合等を基盤」が多い(図20・21)。

図20 見守り支援活動についてのイメージ (年齢層別)

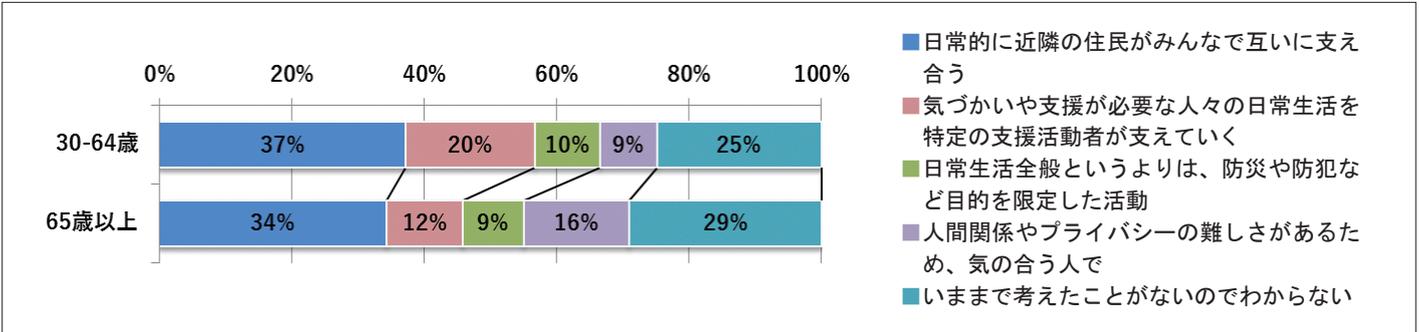
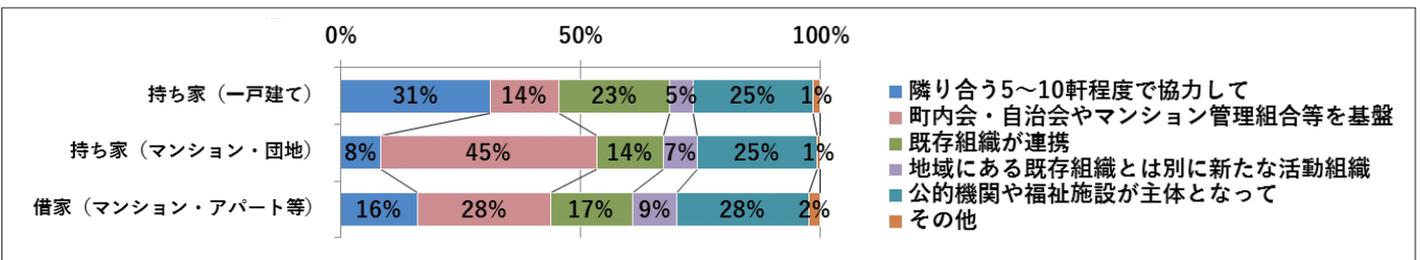


図21 見守り支援活動の組織や体制 (住居形態別)



見守り支援活動における個人情報の提供については、「管理体制や規則が整備されればよい」が最も多かった。「提供に抵抗感がある」理由については「情報の流出や悪用の恐れがある」が最も多い(図22・23)。

図22 見守り支援活動における個人情報の提供 (年齢層別)

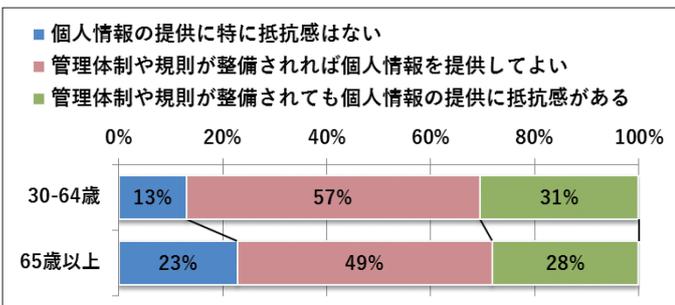
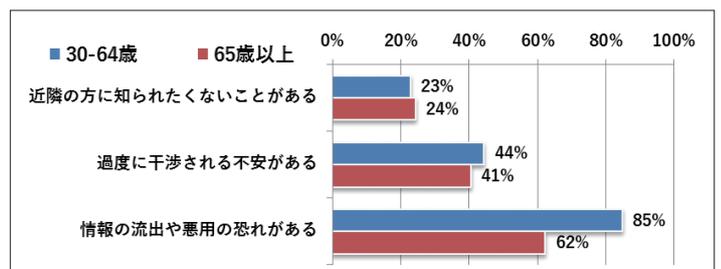
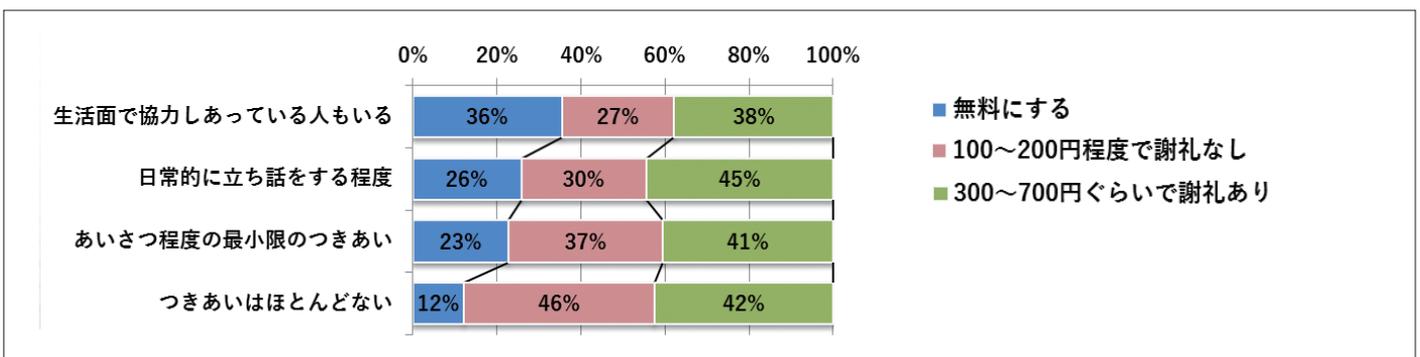


図23 「管理体制や規則が整備されても個人情報の提供に抵抗感がある」理由 (年齢層別)



日常生活上のお手伝い活動を行う場合の利用料金については、全体としては「300～700円ぐらいで(活動者に)謝礼あり」が最も多く、近所の方とのつきあいの程度で比較しても差が見られなかった(図24)。

図24 日常生活上のお手伝い活動をする場合の利用料金 (近所の方とのつきあいの程度別)



5) 介護や子育てなどで悩んだ時の相談先について

家族・親族以外では、30-64歳は「友人や、職場の知人など」に頼る傾向が強く、65歳以上は公的機関・専門職に頼る傾向が強いといえる(図25・26)。

図25 介護や子育てなどで悩んだ時の相談先 (30-64歳)

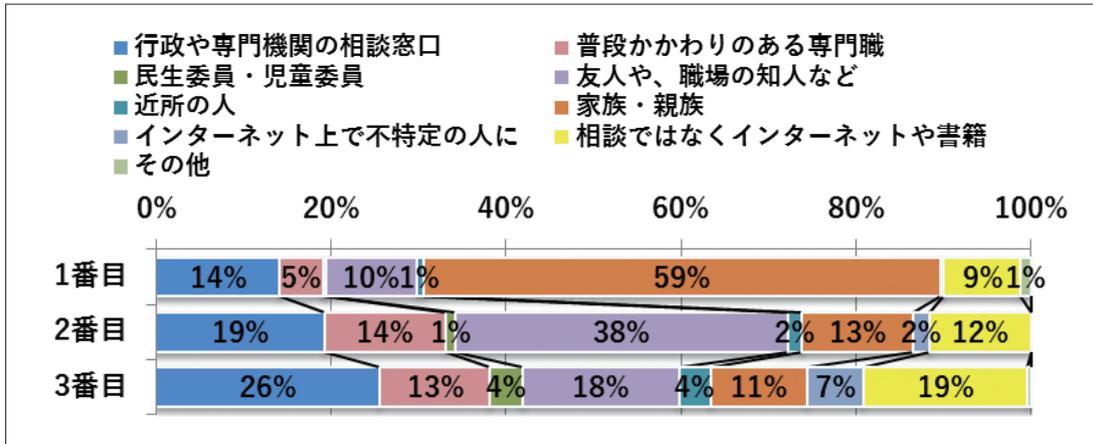
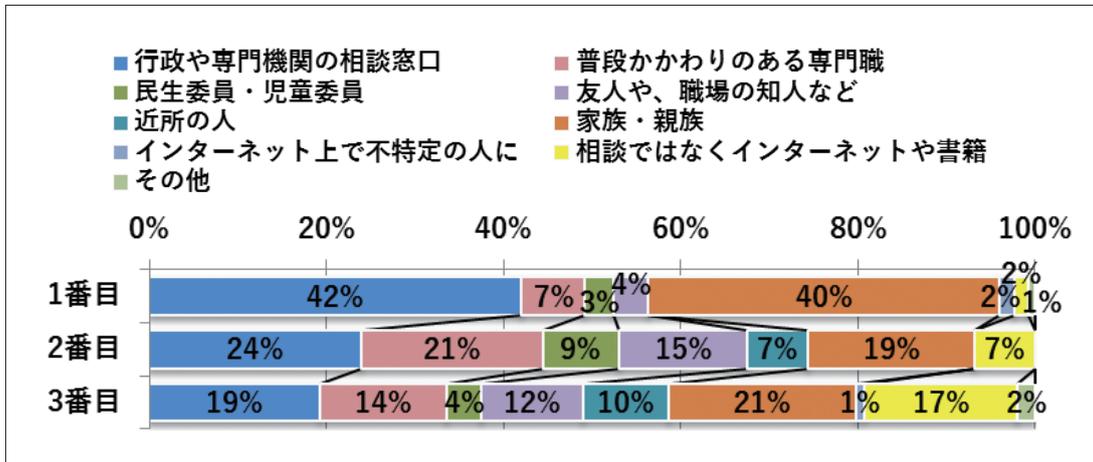


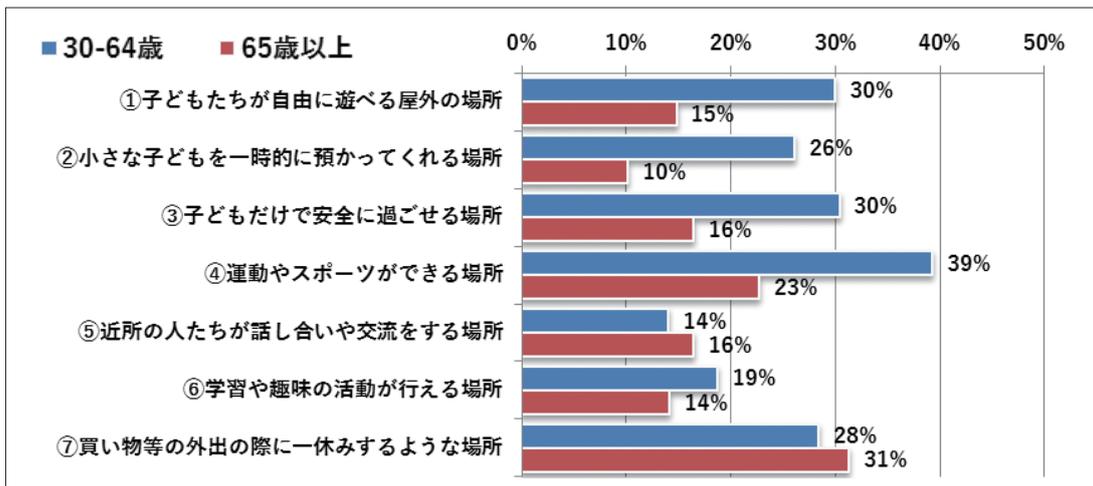
図26 介護や子育てなどで悩んだ時の相談先 (65歳以上)



6) 近隣の環境について不足していると感じること

30-64歳においては「運動やスポーツができる場所」や子ども関係の場所(①・②・③)の回答が多い。「買い物などの外出の際に一休みするような場所(ベンチ、屋根のある休憩所など)」は、年齢層を問わず30%程度の方の回答があった(図27)。

図27 近隣の環境について不足していると感じること (年齢層別)



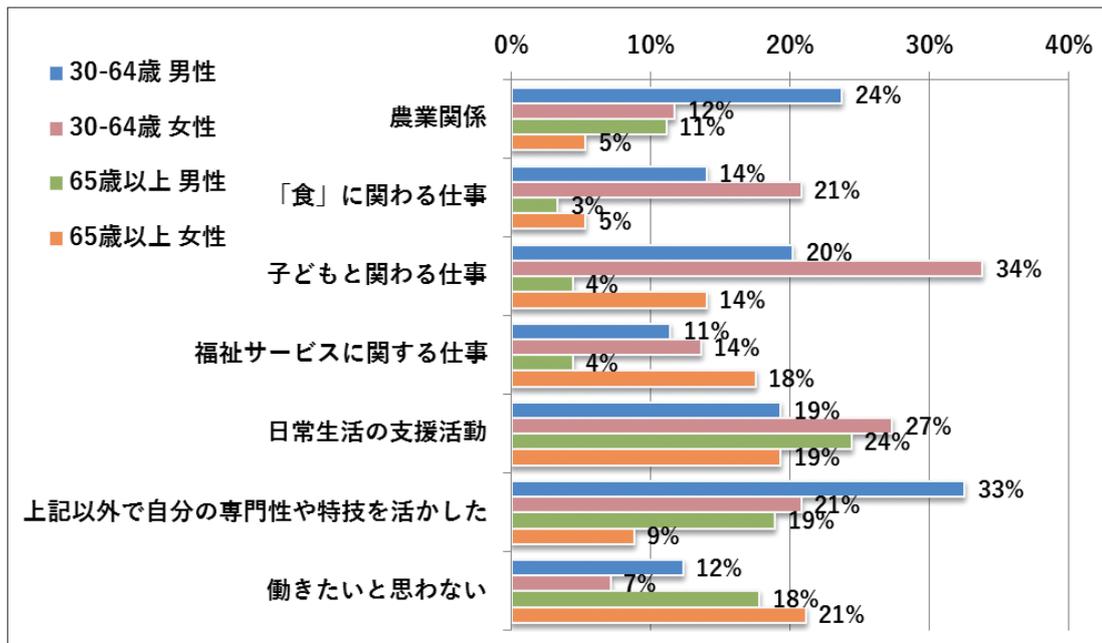
7) 高齢期の就労について

高齢期の就労の希望について全体で最も回答が多かったのは「日常生活の支援活動」(25%)であった。

「農業関係」と「自分の専門性や特技を活かした仕事」は男性の割合が高く、「『食』に関わる仕事」・「子どもと関わる仕事」・「福祉サービスに関する仕事」は女性の割合が高い。

65歳以上の方において「働きたいと思わない」は2割程度であった。今後、高齢者が活躍できる就労の機会の開発や、環境整備を進めていくことが課題となる(図28)。

図28 高齢期の就労の希望 (年齢層・性別)



3. 総括

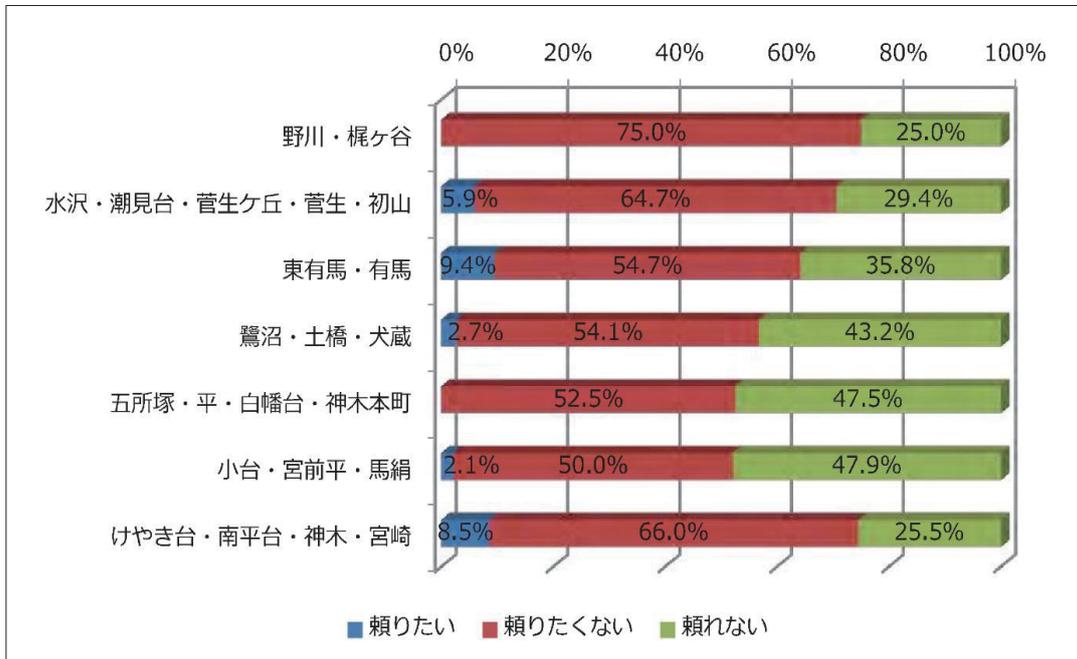
今回の調査結果から、医療における課題として医療機関に関する情報、在宅療養や災害医療について知る機会が不足していることなどが挙げられる。また、日常生活においては積極的に地域活動に参加している人がいる一方で、地域でのつながりをつくることの難しさも明らかとなった。

今後は、行政や医療、福祉の専門機関と地域それぞれが取り組んでいくことを明確化し、地域の自助力や互助力を高めていくことが求められる。そのためには、実際に暮らしている区民の皆様が主体となって、暮らしやすい地域について積極的に議論し実践できる場や機会を増やすことが重要である。

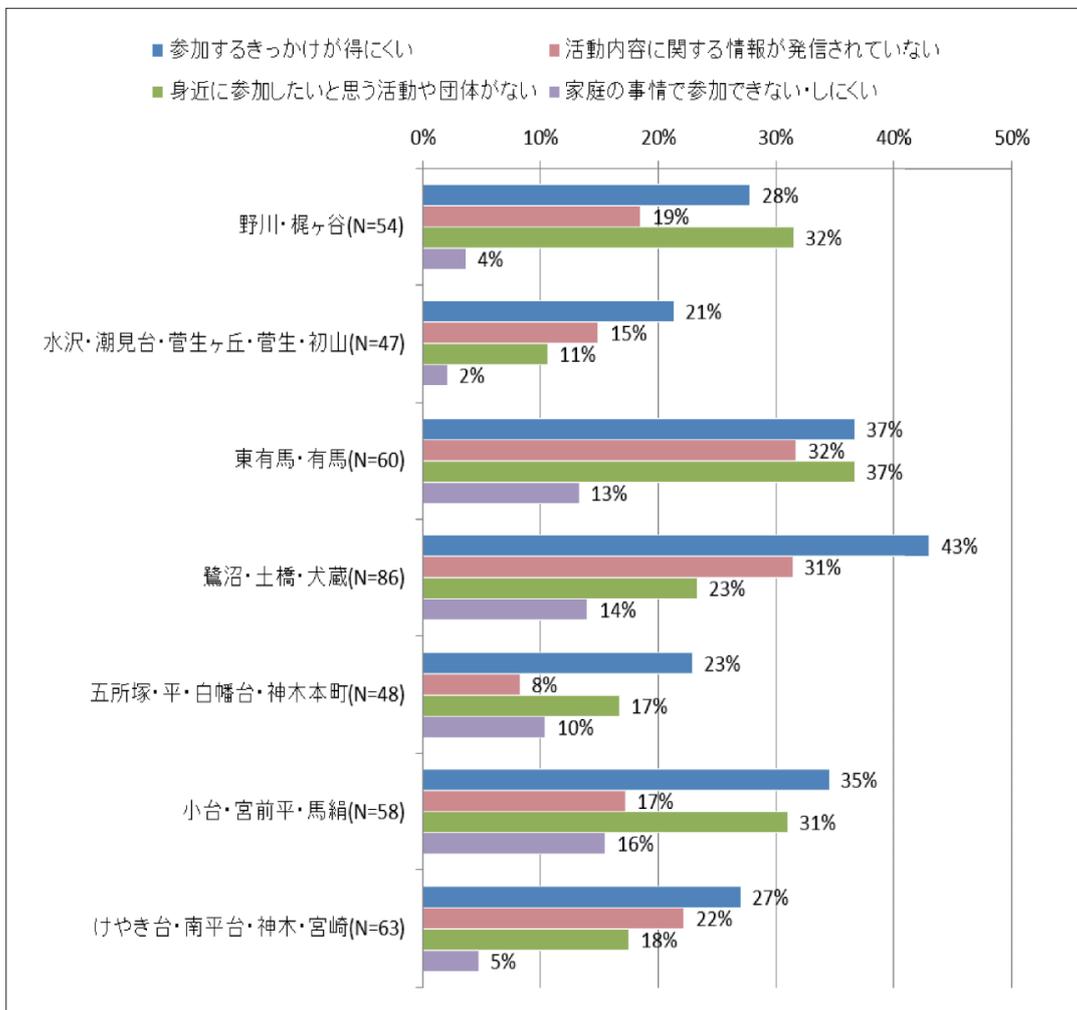
4. 参考資料

地区別のアンケート結果～抜粋～

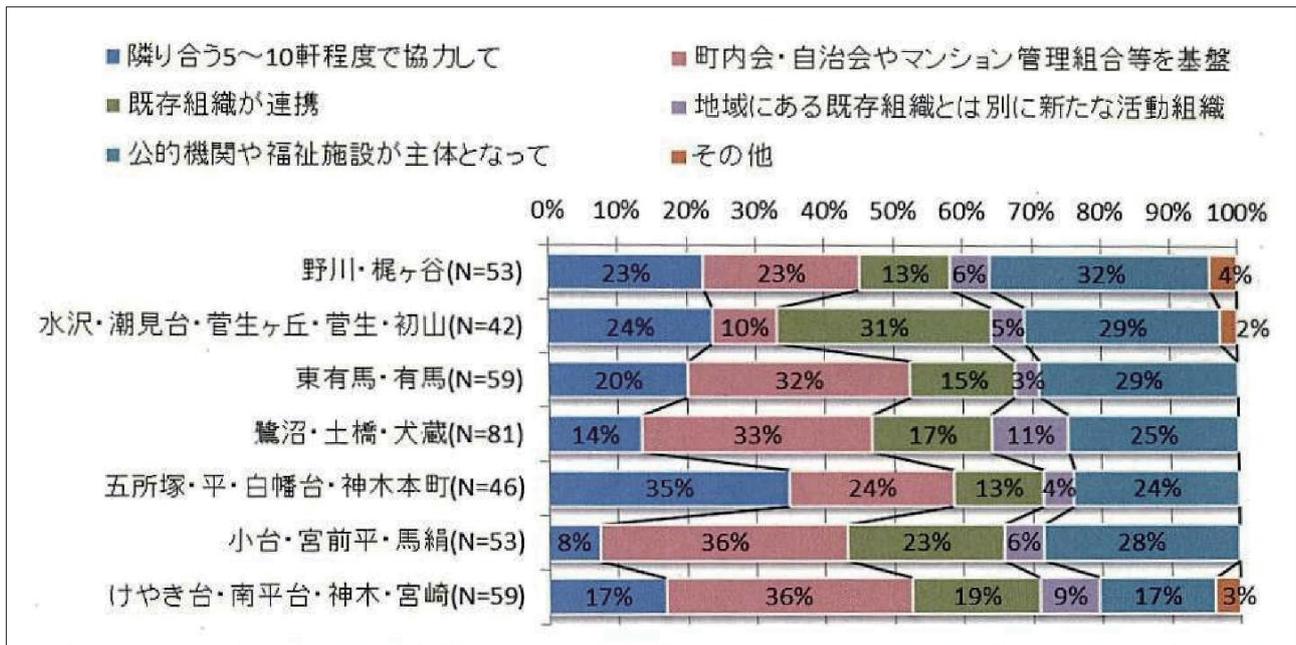
在宅での長期療養で「近隣の住民」に頼りたいか



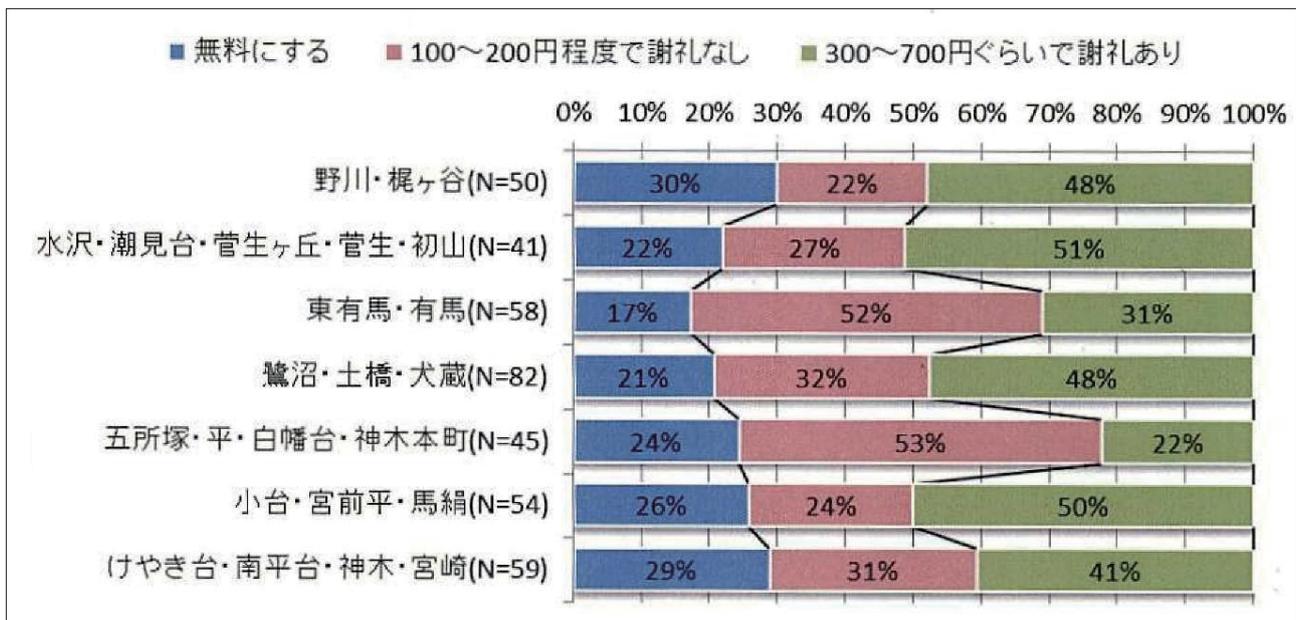
地域活動の課題や参加しない・しづらい理由

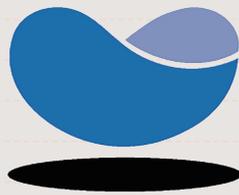


「見守り支援活動」の組織や体制



日常生活上のお手伝いの利用料金





発行：宮前区役所地域みまもり支援センター地域ケア推進担当
宮前区宮前平2-20-5 TEL.044-856-3300